

うつのみやまちづくり市民会議 第1回合同会議 議事録

会 議 の 名 称	市民会議（第1回合同会議（第3回全体会） 市民福祉分科会）
開 催 日 時	平成18年10月11日（水）午後6時から8時
開 催 場 所	宇都宮市役所 14階 大会議室
出 席 者	（市民委員）梅林孟副会長，新由美子委員，上野茂委員，千保喜久夫委員， 矢田部一郎委員 （欠席：伊達悦子会長，江連京子委員，大堀導子委員） （庁内部会）篠原，入江，田尻，小関，藤牧，森田，高橋，君島，兼原 （市事務局）
会 議 内 容	・重点課題に関する意見交換 ・提案予定事業に関する意見交換
会 議 資 料	1．重点課題対応シート 2．施策事業提案
発言者	発言内容
事務局	それでは，市民福祉の合同会議を始めます。本日はよろしく願いいたします。
各出席者	（自己紹介）
市	重点課題の発表（省略）
市民委員	重点課題の発表（省略）
事務局	それでは意見交換に移ります。今日は行政側の検討結果を市民会議の皆さんは初めて聞きましたし，まずは市民の側から部会の検討についてのご意見，ご質問をいただきたい。
市民委員	私は心のバリアフリーが必要だと思う。これまで障害者は学校等で隔離されてきたため，障害者と障害を持たない人との間で人格的關係が形成されていないケースがほとんどではないかと感じている。
市	市としても，心のバリアの解消が課題であるとは認識している。
市	小さなころから障害をもつ人と自然に交流することが大切ではないかと思う。

市民委員	市民会議では福祉におけるネットワークについて提案していますが、現在市が取り組んでいる安心ネットワークはどこが所管なのか。また、そのネットワークは情報管理システムなのか。
市	高齢福祉課が進めています。ネットワークと言っても、情報システムのことではない。
市民委員	現在の待機児童の状況はどうか。
市	今年度は36名の待機児童がいる。保育園へのニーズは年々高まっており、待機児童数も増える傾向にある。 子育てのしやすい労働環境の整備については、他の部会においても検討が進められている。
市民委員	問い合わせ窓口の一本化については、行政側は何も対応を考えていないのか。
市	現状では市民からの電話や窓口での問い合わせの初歩的な振り分けは、総合案内所で行っている。ただし、このサービスについて十分には市民に周知できていないとは感じている。
市	高齢者にとっても分かりやすい問い合わせ先にするべきではないか。
事務局	一見単なる電話番号の話に過ぎないと見られるかもしれないが、市民会議で問い合わせ窓口にこだわったのは、そうした問い合わせや相談のニーズは誰もが突然に持つ可能性があるからである。
市民委員	市の広報の仕方に問題があると思う。高齢者は市の広報誌をあまり見ていない。
市民委員	言語障害の人もいて、人に聞けない人がいることにも留意すべきだと思う。
市民委員	プライバシー情報について、市は対応をどのように考えているのか。
市	個人情報への対応は最近言われ始めたことであり、対応に遅れている面がないとは言えないと思う。
市民委員	民生委員や福祉協会の委員を活用した広報を考えるべきではないか。彼か

	らが訪問できれば、弱者にも情報は届くようになる。
事務局	ずいぶん施策・事業についての議論となってきたので、続いて施策事業案の発表に移りたいと思う。
市民委員	施策・事業案の発表（省略）
事務局	市民会議からの提案について、何か市役所側からのご感想や関連する情報をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
市	子どもの居場所づくりについては、現在子どもの家の設置を全ての学校区に広げたいと考えている。 また、国のほうも、文部科学省と厚生労働省がタッグを組んで、放課後の全児童を対象に、放課後子どもプランという事業を検討している。
事務局	市民会議の提案のポイントの 1 つに、異年齢児が一緒になって遊ぶ場が必要との認識があることを補足しておきます。現在の子どもの家事業では、その点が十分ではないと市民会議では考えている。
市	地域に障害者が出ていけるようになるには、市民会議の提案にあったように、ボランティアの活用が重要と考えている。
市民委員	障害者にとっては、一端施設を出た後は施設に戻れないということになると、不安で施設から出ることができなくなる。そのへんもよく考えた事業にしてほしい。
市	提案のあった福祉ネットワークの構築については、現在安心ネットワーク事業がある。見守りが必要な高齢者は市内に 500 人ほどだが、その半分くらいが自分には見守りは要らないと言う。 また、個人情報の取り扱いについても苦慮しているのが現状である。
市民委員	市民会議でも、見守りを拒否する人がいることは議論に出ました。見守りを拒否した人は、本当に大丈夫だったのか。
市	現実には、そうした見守りを拒否した人に対しても、地域包括支援センターの人が訪問はしている。
市民委員	自治会や民生委員とうまく調整して、そうした施策・事業を展開することが必要だと考える。

市民委員	ハードのバリアについて、建築基準ではひっかからないが、障害者にとっては不便となる段差などは、多いのではないか。
市民委員	バリアフリーの現状については、データをとっている団体がある。
市	市の施設について、新設するものは全てバリアフリー対応としている。建築基準をクリアしたものについて、市がさらに対応することは現実では難しい面がある。行政だけでは手が回らない課題であるため、市民会議の提案にあったように、市民と協働で行うべきかと考えている。
市	心のバリアフリーについては、子ども向けに出前の福祉講座を設けるなどの対応を進めている。
市民委員	障害者ならば、だれもが同じような考えをするわけではない。特に途中から障害をもった人の声が市の施策に届いているか心配である。
市民委員	健康づくりのパイロットプランについても市のご感想を伺いたいと思う。
市	市としても健康づくりには取り組み始めている。健康づくりを継続的に行うには、楽しくできて、成果が分かることが大事ではないかと思う。
市民委員	健康づくりは現在でも行われていますが、各課がばらばらに実施している点に問題があると考えている。
市民委員	パイロットプランでは成果が見えるため、健康づくりへの市民意識の高揚にもつながるのではないか。市民会議としては、この事業を強く薦めたいと思う。
事務局	仕事と家庭の両立についてあまり議論ができていませんが、市役所側のご意見はいかがでしょうか。
市	表彰というかたちで、仕事と家庭の両立についてのインセンティブを与えることは重要だと認識しているが、大企業ほど表彰対象になりやすいのではないか。全体の99%にもあたる中小企業や個人経営の事業所に対してどのように対応するかが課題となると思う。
市	事業所内保育所については、ぜひ進めて頂きたいと思う。現在認可外保育所については、市が単独で補助はしている。ただし、公的資金で支援する

	となると、その企業に働く人以外も入ることができるのか等の条件をクリアする必要があるのではないか。
事務局	仕事と家庭の両立について、中小企業向けの施策事業が必要とのご指摘はその通りかと思うが、現在市では何か対応できているのか。
市	現在のところ十分に手がまわっていない状態であります。
事務局	子どもの居場所づくりについても、まだあまり議論ができていませんが、いかがでしょうか。
市	先に述べた放課後子どもプランに関連するような施策・事業も考えられる。また、現在は子どもの安全を守るための取り組みを始めつつあり。第4次総合計画では防犯の視点が漏れていたが、今回は部会においても、防犯を1つの重要な課題として検討している。
市民委員	防犯については、教育委員会と児童福祉課との連携が必要だと思う。
事務局	福祉サービスの窓口の話に戻りますが、現在市では何か苦情や問い合わせを整理し、マニュアル化などしているのでしょうか。
市	現在は相談票というかたちで整理はしているが、紙媒体であるため、必要なときに情報がすぐに出てこないこともある。個人的な意見となりますが、コールセンターを設置する自治体も出ていることなどを考えると、宇都宮市も個人の力だけに頼らず、ITなどを使って準備できる場所は対応することも必要ではないかと思う。
事務局	議論は尽きませんが、そろそろ時間がまいりましたので、本日の合同会議は以上とさせていただきます。
事務局	なお、次回の市民福祉分科会は10月24日を予定しております。よろしくお願いします。 以上